

平成28年度 学校自己評価(保護者・教職員)アンケートのまとめ

須坂市立須坂支援学校

保護者アンケートは10月17日に配布し、10月末に回収した。教職員アンケートも同時期に実施、回収した。

評価：A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そうは思えない」 D「そうは思わない」

	評価の観点	評価	保護者		コメント	教職員		アンケート評価の結果 外円:保護者 内円:教職員	課題及び改善策・向上策	
			人数	割合		人数	割合			
1	新たな学校づくり 新たな学校づくりに向けた取組について、学校(部)だよりや「地域通信」等を通じて、保護者や地域の方々に情報が十分に伝わっているでしょうか。また、保護者の思いや願いを受け止めた学校づくりができていますでしょうか。	A	21	66%	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が努力しておられると思う。 須坂小の保護者や地域の方に子どもたちのことがどのくらい伝わっているか、交流もほほえないのでわからない。 学級だよりをHPで閲覧していたが、最近アップされず残念に思う。 	6	40%	<ul style="list-style-type: none"> おたよりでは活動や学習の様子が写真とともに詳しく伝えられていると思います。 行事への参加のしかたや個々子どもの成長など、学校ではどのような意図でやっているかというような内容をおたよりで伝えるようにしている。 中学部開設から4年目なので、「新たな学校づくり」という評価の観点は見直してもいいかと思われる。これまでをふまえてさらに進化という意味での「新たな」であれば、どんな点を「新たに」するのか共通理解が必要だと思ふ。 	<p>9% 0% 40% 66%</p>	新たな学校づくり 保護者及び職員の評価は概ね良好である。開校6年目となり学校としての体制が整ってきたことや、定期的な情報発信により学校の様子を地域・保護者の方に伝達してきていることによると思われる。 HPへのおたより掲載は新HPの機能的な問題があり、掲載を中止している。希望する保護者には個別に学級だよりのファイルを送るなどの対策を検討したい。 「新たな学校づくり」という観点での評価を継続するのであれば、観点の内容を具体的に見直す時期がきていると考えられる。
		B	8	25%		9	60%			
		C	3	9%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
2	人権の尊重 児童生徒一人一人の人権が守られ、教育的ニーズに応じた授業実践や関わり方ができているでしょうか。	A	21	66%	<ul style="list-style-type: none"> 少しの時間でも個別課題の時間があり、良いと思う。 すぐ成果が出ない中、根気強くご指導いただきありがたい。 実践されていると思う。 	6	40%	<p>6% 7% 28% 40% 53%</p>	人権の尊重 保護者からは概ね良好な評価をいただいている。人権にかかわる研修の積み重ねや日頃からの子どもとの関わりについて、職員会、部会等で話題としていることが評価されたものと思われる。個に応じた学習の時間があることも高く評価されている。人権を守る支援については、日頃から職員が相互に注意しあえる関係を大切にしていきたい。	
		B	9	28%		8	53%			
		C	2	6%		1	7%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
3	個別の指導計画 保護者との連携の下、児童生徒の実態(日々の生活・授業支援)に添った「個別の指導計画」が作成され、「個別の指導計画」が有効に活用された支援・指導がなされているでしょうか。	A	22	69%	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画に沿った課題を細かく指導いただいている。 子どもの長所を伸ばしてくれていると思う。 	8	53%	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画を作成し、検討することが私にとつととても大切な研修になっています。 	<p>0% 0% 31% 47% 53% 69%</p>	個別の指導計画 個別の指導計画について、保護者からは高い評価をいただいている。これは年度当初に保護者と共に検討し作成したこと、また適宜評価する機会を設けながら授業改善に結びつけてきたことが評価されたものと思われる。学校でも個別の指導計画に照らして、授業の目標設定、評価を行い、その都度見直しをしてきた。 教職員の評価からは、個別の指導計画を共同で見合うこと自体を研修ととらえるとともに、具体的な支援とのつながりを明らかにしていく必要性が指摘され
		B	10	31%		7	47%			
		C	0	0%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
4	保護者との連携 連絡ノート、家庭訪問、懇談会などを通して児童生徒の様子を把握し保護者と連携した教育活動を実践することができているでしょうか。	A	22	69%	<ul style="list-style-type: none"> 連携できていると思う。 連絡ノートやおたよりで日々の様子がよくわかり、楽しそうな様子が写真で伝わってきます。 実践されていると思う。 	8	53%	<p>0% 0% 25% 47% 53% 69%</p>	保護者との連携 保護者からの高い評価をいただいている。毎日の送迎時や連絡ノート等で、子どもの様子について伝えてきていること、また必要に時に電話や家庭訪問などによって連絡を密にするよう心がけていることが評価されたと考える。しかし、直接話せる時間をもっと確保してほしいという要望もある。一人一人の教育的ニーズに合わせた支援を行うために保護者との連携は不可欠であり、今後も引き続き連絡の手段や方法を工夫していきたい。	
		B	8	25%		7	47%			
		C	2	0%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
5	個に応じた支援 児童生徒一人一人の特性に応じた教材教具の工夫、わかる状況づくり、視覚的な援助などの適切な支援ができていますでしょうか。	A	21	66%	<ul style="list-style-type: none"> 実践していると思う。 教材について、保護者の要望に応じていただいている。 視覚支援や繰り返しの勉強で、難しい迷路ができるようになり驚きました。 	5	33%	<ul style="list-style-type: none"> もつと教材研究に時間をかけたいと思っているが荒ただしく過ごす中で十分できない面がある。子どもたちと一緒に時間にどンドン工夫している先生方がいて、すごいと思う。 	<p>30% 0% 31% 33% 66% 67%</p>	個に応じた支援 個に応じた支援のあり方を追究すると、常により適切な支援の可能性が見えてくるため、職員が創意工夫していく中味は際限なく広がっていく。これまで実践している個々の目標に照らしての評価規準、観点を設けての実践研究を今後も推進・継続していきたい。また個別の支援について、保護者との共通理解のもとで進めていく必要がある。
		B	10	31%		10	67%			
		C	1	3%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
6	チームでの支援 複数担任や学校職員がそれぞれの個性や力を発揮して、一人一人の児童生徒について共通理解をして、指導・支援にあたることができているでしょうか。	A	19	59%	<ul style="list-style-type: none"> 実践していると思う。 	8	53%	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で、こまめに一人一人の児童生徒のことを共通理解できるように職員間で情報交換をするようにしてきた。 こんな支援をしてみた、〇〇さんはこんな様子があったなど、担任、補助員の間で古くもについての情報交換が密にできている。チームで支援する良さを感じる。 児童がいる前での職員連絡や相談事などにおいては、その話題や言葉遣いなどに気を付けたいと思うことがある。 小平教頭先生が生徒と休み時間に遊んでくださったり、竹内先生が生徒の相談に乗ってくださったり等、学校全体でその子を応援していただいている。担任としても心強い。 	<p>30% 0% 38% 47% 53% 59%</p>	チームでの支援 指導学級の運営、生活単元学習など部全体の活動で、CTを中心にしたチームティーチングで、指導に当たっている。この仕組みを機能させるために、教員補助員も含めた授業者間で児童生徒個々の目標や評価規準を確認し、情報共有する時間の確保が必要である。
		B	12	38%		7	47%			
		C	1	3%		0	0%			
		D	0	0%		0	0%			
		合計	32			15				
意見・要望等	保護者		教職員		評価を踏まえた今後の学校運営の方向					
	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会について、舞台上に座っているだけでなくもつと何かできないか。打楽器、ダンスなど。パネルシアターは音楽と少し違うと感じる。(音楽会への工夫要望3件) 子供が増え、適切な人員配置が保たれることを願っている。 子どもが学校を好きになったのは先生方の教育、学校の環境がよいからだと思う。 連絡帳だけでなく直接お話しできる時間がもう少しほしい。 おたよりのバックナンバーをHPに掲載してほしい。 PTAバレー大会がGW直後からずらせるとよい。 学校の中だけでなく、地域に出かけて行って関わりを持つ授業がとても良いと思う。 様々なこだわりを持つ子どもたちに関われるところを少しずつ増やしていただき、行事ごとに成長を感じることが多くなり、本当に素晴らしい支援、指導をいただいでありがたく思っています。地域校との交流もとても良いと思います。 		<ul style="list-style-type: none"> 言葉のない子どももいる中で、児童生徒の人権を守って教育活動を行うためにも、呼び方「〇〇さん」とすることを確認し、自らの人権感覚が問われていることを思いたい。 須坂小との連携はこれまでよりワンステージ上の段階に入ったように思われる。今後子どもたちの実態を踏まえたうえで、お互い高め合うつながりを目指したい。 職員数で見れば本校より規模の小さい市内小中学校が増えてきている中、本校も地域の学校の1つとして郡市の研究会やスポーツ大会、発表会などに職員が学校として積極的に参加すべき時期が来ていると思う。無理なく、かつできることについては取り組んでいこうにしたい。 		保護者アンケートの回収率は32人全員提出で、100%であった。過去3年間で最も回収率が高く、調査結果は信憑性の高いデータと言える。昨年度に続いて小1から中3までの全学年が在籍し、児童生徒数、教職員数ともに開校当初の目標値まで到達している。児童生徒理解やその指導、支援のあり方、学校運営上の校務分掌の業務分担等については、職員会議において毎回確認したり、学期毎に反省を確認したりしながら改善策を検討している。今後も、小学部・中学部の独自性を保ちつつ、部を越えた連携をして一体感のある学校づくりに取り組んでいきたい。そのために、学級の児童生徒について担任、教員補助員共に発達段階の状況や長・短期の目標、評価規準などを情報交換し、部会や職員会議において共通理解した上で、指導に当たっていく。また併設する須坂小学校との交流及び共同学習については、行事への参加の仕方を今年度同様に工夫し、今後の実情に応じたあり方を模索していきたい。同時に須坂支援学校開校の経緯について、両校の全職員が定期的に確認していく必要がある。今後も学校自己評価等を活用し、PDCAサイクルを機能させて、一層本校の教育を充実したものにしていきたい。					